

教材・支援機器活用実践事例フォーマット(特別支援学校版)

*この資料は、Webで公開することを前提にしています。生徒の個人情報公開の確認を取るか、個人が特定できないように作成するか、注意してください。

	実践年度	
参加 する授 業に ついて	教科名等 (該当する教科名等を選択。 当てはまらない場合はその他 を選択し、次の単元・題材名 の欄に記入。)	☐ 国語 ☐ 社会 ☐ 算数/数学 ☐ 理科 ☐ 生活 ☐ 音楽 ☐ 図画工作/美術 ☐ 家庭/技術・家庭 ☐ 体育/保健体育 ☐ 道徳 ☐ 外国語/外国語活動 ☐ 総合的な学習の時間 ☐ 特別活動 ☒ 自立活動 ☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ その他の教科 ☐ その他()
	単元・題材名	感覚遊び
	授業の目標	「反応」で意思表示する段階から、より具体的な発信手段を身につけることでコミュニケーション能力の育成を図る。
	観点別学習状況の評価 の観点 (教科の特性により設定した観点 がある場合は「その他」を選択し 記載。)	☐ 「知識・理解」 ☐ 「技能」 ☐ 「思考・判断・表現」 ☐ 「関心・意欲・態度」 ☐ その他()
	自立活動の要素	☐ 「健康の保持」 ☐ 「心理的な安定」 ☐ 「人間関係の形成」 ☐ 「環境の把握」 ☐ 「身体の動き」 ☒ 「コミュニケーション」
学習 (集 団)の 実態	学部・学年・人数	☐ 通常の学級 ☐ 通級による指導 ☐ 特別支援学級 ☒ 特別支援学校 ☐ 就学前 ☐ 小学生 ☐ 中学生 ☒ 高校生以降 ☐ 特定されない
	対象の障害	☐ 視覚障害 ☐ 聴覚障害 ☒ 知的障害 ☒ 肢体不自由 ☐ 病弱・身体虚弱 ☐ 言語障害 ☐ 自閉症 ☐ 情緒障害 ☐ LD(学習 障害) ☐ ADHD(注意欠陥/多動性障害) ☐ その他
	子どもの課題(特性・ ニーズ)	☐ 聞く ☐ 読む ☐ 見る ☐ 話す ☐ 書く ☐ 運動と姿勢 ☐ 計算する ☐ 推論する ☐ 日常生活活動 ☒ 社会性・コミュニケー ション ☐ 不注意 ☐ 多動性・衝動性 ☐ 覚える・理解する ☐ 時間的・空間的・人的交流の制約 ☐ その他 周囲に反応を読み取ってもらうことでコミュニケーションが成立している段階。卒業後の生活を見据え、他者と関わる 場面でより「伝わりやすい」コミュニケーション能力の育成が必要
ICT活 用に ついて	使用した支援機器・教 材の名称 (使用した支援機器・教材の 名称を記載。なお、特定の製 品に特化した実践の場合は製 品名を記載。)	VOCA(ステップバイステップウィズレベル)
	活用のねらい	Aコミュニケーション支援(☒ A1意思伝達支援 ☐ A2遠隔コミュニケーション支援)B活動支援(☐ B1情報入手支援 ☐ B2機器操作支援 ☐ B3時間支援)C学習支援(☐ C1教科学習支援 ☐ C2認知発達支援 ☐ C3社会生活支援) ・発信の明確化 ・コミュニケーション能力の育成
	活用方法	好きな活動(エアトランポリンなどの揺れ遊び)の中に「コミュニケーション場面」を設定する。例えば、「揺れ遊び(揺ら す)を中断し、生徒の反応を待つ」、「生徒の反応」、「もう一度揺れ遊び」といった、生徒の表出がある場合には応答し ていく場面を設定していく。その中の生徒の反応についてVOCAを活用、代替し、より伝わりやすい発信にする。
効果・ 評価	ICTを活用した授業での 子どもの様子や変容お よび授業の評価	これまでは頭上で両手を合わせ「○」のサインで意思表示していたが、周囲の教師がその反応に気づかない場面も見 られた。しかしながら、VOCAを活用することで、音声で発信することで、見過ごすことが少なくなった。
資料	図・写真・表等はこちら へ貼り付けてください。 (生徒の写真は個人情報公開の 確認を取っているものとする。)	